

水俣市の「愛林館」スタッフ 村田佐代子さん(29)



水俣市東部の山あいにある市の交流施設、久木野ふるさとセンター「愛林館」は、年間を通じて森と市民をつなぐさまざまなイベントを手がけている。スタッフの1人、村田佐代子さん(29)は自然の魅力にひかれ、3年余り前からここで働き始めた。今年からは棚田での米づくりにも挑戦したいという村田さんに森や自然への思いを聞いた。

【西貴晴】

— 森づくりに関わ
るようになったきっかけは

◆中学生のころから地球温暖化のニュースなどを聞いて、環境問題に関心がありました。高校2年の夏に愛林館のイベントの一つ、森の下草刈りを手伝う「働くアウトドア」に参加したのですが、林業の実情を聞いてショックを受けました。

— 何がショックだったのですか？

◆山村は過疎化が進み、輸入材に押されて森が手入れされないまま

現場を見たいと思い、静岡にある林業の学校に進みました。

— 女性で林業は大変ではなかったですか

ま荒れている。私はそれまで看護師を目指していたのですが、森の

◆林業学科の同級生8人のうち、女性は私だけでした。「女扱い

「森にあこがれ自然守る」

会
聞
きたい
きたい

しないでよ」と言っ
て頑張りましたが、林業
後継者育成のための学
校なので、チェンソー
— 実習など授業は苦勞
しました。卒業後、県
組合で1年半働くこと
ができました。そして
24歳から1年余り、タ
イ北部で農場ボランテ
ィアも経験しました。

— タイですか

— 森と関わる生活が長くなりましたね

内の森林組合に就職し

◆はい。20人ぐらい

ようとなりましたが、募
集は男性ばかり。なん
とか人吉の木材会社を
見つけて2年半、その
後は人吉での経験があ
ったせいか天草の森林

— 自然の中で暮らす
というのは昔から日本
人がやってきたことで
す。さらに森の近くに
住んでいる人が森を守
ってきた。私にとって
今の仕事は一番やりた
かったことです。今年
からは近くの棚田の米
づくりにも挑戦した
い。自分で食べる物を
自分で作るって格好い
いと思います。

プロフィール 八代市出身。水川高を経て静岡
岡県立農林短期大学校林業学科卒業。愛林館
は3月17日、水俣市牧ノ内の「もやい館」で、
高校生が見た山村生活をテーマにしたドキュ
メンタリー映画「森聞き」(柴田昌平監督、
2010年)の上映会をする。10時、14時、
18時半の3回。前売り1200円、当日15
00円、高校生以下無料。愛林館0966・
69・0485。